

WORK わくわく

プロの履歴書

30

富田 孝徳さん

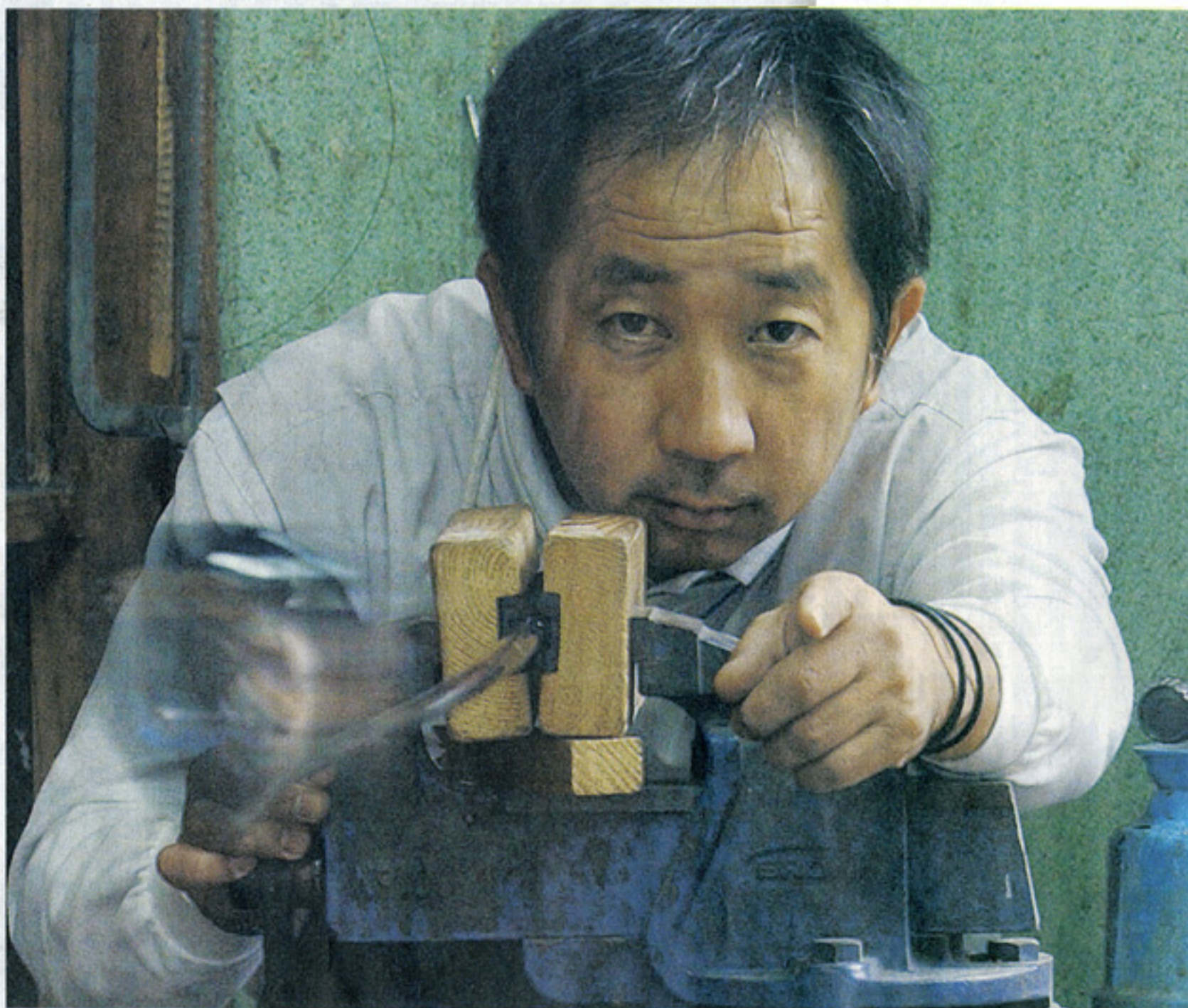


とみた・たかのり	
46歳	
やぎ座 B型	
加治木町	
18歳	県立隼人工業高校卒業、日産ディーゼル工業(埼玉)に入社
19、20歳	全国技能五輪の打ち出し板金職種で埼玉県代表として出場
22歳	プロゴルファーを目指し、かごしま空港36CCに研修生として入社
27歳	修業のため、ゴルフクラブクリニック西(福岡)に入社
30歳	代表としてゴルフクラブクリニック富田を開店。現在に至る
38歳	南日本ゴルフ選手権優勝
41歳	同上、カシオワールドオープン出場
42歳	全国都道府県対抗アマチュアゴルフ選手権鹿児島県選手として団体の部準優勝
43歳	南日本スポーツ賞受賞

・趣味はドライブ。日帰りで福岡に行ったりする。基本的にじっとしていない。
・座右の銘「日々努力精進」。

ゴルフクラブ職人

顧客の技術見極め調整



「お客様のクラブを自分の物として考え、大事に丁寧に扱い、納得し喜んで頂ける仕事をしたい」と話す富田孝徳さん



①クラブヘッドの原点のパーシモンヘッド②ヘッドとシャフトの角度を調整するライ角調整器③開店から愛用している工具類④室内練習場

加治木町反土でゴルフクラブ工房を営んでいます。主な仕事はクラブの製造、修理、メンテナンス、販売です。

お客様に合うクラブをつくるために、まず要望と悩みを聞きます。「球を速くに飛ばしたい」「球が曲がらないように」などさまざまです。そこで実際、備え付けの室内練習場で打ってもらい、スイングがお持ちのクラブで合っているか考えます。それからクラブのメンテナンス、交換、製造に入ります。

メンテナンスや交換には、ヘッド(球を打つ部分)の重さを調整したり、シャフト(クラブの柄の部分)を交換したり、いろいろあります。どれも微妙な調整ですが、要望に応えられるよう努めます。

クラブには「番距離の出るドライバー」「グリーン近くでカップに寄せるウェッジ」

などがあります。その中で「打ちやすさ」「本番でどんな状況にも対応しやすいクラブ」「かつ、F550」などをテーマに製造します。

この仕事に就いたのは、物づくりとゴルフが好きだったからです。高校を卒業して車会社、その後はプロゴルファーを目指しました。車会社では、全国技能五輪打ち出し板金職種の選手として腕を磨きました。ゴルフは父の影響で十一歳から始め、プロテストの最終予選まで進みましたが、合格できませんでした。

ゴルフの研修生時代、練習場の器具などを修理する自分の器用さを師匠が見て、現在の職を勧められ、福岡で修業を始めました。修業時代は、夜遅くまでパーシモン(柿の木)ヘッドの製作、クラブ全体のバランスの調整などを勉強。クラブづくりを一から十まで学び、三年で独立しました。かなり修業はしましたが開店したころは、お客様の大事なクラブの修理となると、難しく感じることもありました。

お客様のゴルフの技術や体力などを見極めてクラブをつくるには、経験が大きく影響する仕事です。また、世間には次々と新しいクラブが開発されますので、知識も必要です。どういった素材、構造になっているか、日々勉強しています。

お客様にとってクラブは、財産。失敗はできません。修理、交換する前に考えられるすべての失敗を頭の中で予測、整理してから、仕事を始めます。だから「球がよく飛んだ」「ベストスコアが出た」など、お客様の喜びの声を聞いたときが、一番のやりがいを感じます。十七年目を迎えた現在も、初心と緊張感だけは持ちながら仕事をしています。

＜進路＞ゴルフクラブの製造、修理の店を開業するには、クラブメーカーに就職してから独立する方法と、ゴルフ工房に弟子入りしていずれ独立する方法などがあります。ただし、メーカーに就職しても必ずクラブを一からつくる部署に、最初から配属されるとは限りません。

＜勤務＞月曜から土曜の午前9時から午後7時。日曜が定休日。

＜参考図書＞ゴルフクラシック(日本文化出版)、名器の系譜(同)。

もっと知りたい

NIE